

紀尾井ホール室内管弦楽団 2017年度 定期演奏会

首席指揮者にライナー・ホーネックを迎え、 2017年4月 室内オーケストラの新しい時代が始まる

2017年度の紀尾井ホール室内管弦楽団定期演奏会は、バッハ、モーツァルトから、ヒンデミット、ストラヴィンスキーまで古今の多彩なプログラムで、室内オーケストラの新しい時代の幕を開けます。首席指揮者のライナー・ホーネックはじめ、ジョン・ネルソン、サッシャ・ゲッツェルらの指揮者、小菅優、福士マリ子、アントニオ・メネセス、小川典子らの優れたソリストたちとともに、室内オーケストラの彩り豊かな魅力を心ゆくまでお楽しみください。



第106回定期演奏会

リニューアル・オープニング

2017年 4月21日[金]19時開演 | 22日[土]14時開演

指揮・ヴァイオリン **ライナー・ホーネック**

ストラヴィンスキー 二調の協奏曲(バーゼル協奏曲)
 バッハ 2本のヴァイオリンのための協奏曲二短調 BWV1043
 ハイドン 十字架上のイエス・キリストの最後の七つの言葉 Hob.XX/1A

■聴きどころ

新年度最初に演奏するのは、古典と現代を繋ぐストラヴィンスキー「二調の協奏曲」。バロック音楽の合奏協奏曲の形式にモダンなハーモニーが散りばめられ、弦楽の響きに定評がある当団の魅力が光ります。「十字架上のイエス・キリストの最後の七つの言葉」は、作曲したハイドンが傑作と自負し、様々な演奏形態に書き換えられましたが、今回演奏するオーケストラ版がオリジナルです。作曲技法の面からも音楽の面からも、室内オーケストラの基本である二管編成のバイブルといえるこの作品は、再始動にふさわしいものといえるでしょう。



写真:三好英輔

第107回定期演奏会

2017年 6月30日[金]19時開演 | 7月1日[土]14時開演

指揮 **ジョン・ネルソン** / ピアノ **小菅 優**

ルーセル 「蜘蛛の饗宴」から交響的断章
 ショパン ピアノ協奏曲第2番短調 Op. 21
 ビゼー 交響曲八長調

■聴きどころ

パリ室内管弦楽団で長年にわたりその優れた手腕を発揮してきたジョン・ネルソンは、第93回定期演奏会出演以来3年ぶりの登場です。ルーセル「蜘蛛の饗宴」はバレエ音楽で、蜘蛛の巣に掛かって喰われる昆虫たちをドビュッシーのような印象派的な響きによって描写しています。ショパンのピアノ協奏曲第2番では、マエストロ・ネルソンの熱望により小菅優をソリストに迎えます。気品と情熱をあわせ持つ小菅ならではのショパンにご期待ください。



©Marco Borggreve



©Marco Borggreve

第108回定期演奏会

ホーネックのモーツァルト選集I

2017年 9月22日[金]19時開演 | 23日[土]14時開演

指揮・ヴァイオリン **ライナー・ホーネック** / ファゴット **福士マリ子**

モーツァルト ファゴット協奏曲変ロ長調 KV191
 モーツァルト 交響曲第38番二長調 KV504「ブラハ」
 モーツァルト ディヴェルティメント第10番へ長調 KV247「第1ロンドン・ナハトムジーク」

■聴きどころ

〈ホーネックのモーツァルト選集〉は年に1回、首席指揮者ライナー・ホーネックが選ぶモーツァルトの名作でお楽しみいただくシリーズ。いわゆる名曲ばかりでなく、隠れた佳品、管楽器などのための協奏曲も取り上げます。今回は、ソリストに若手の期待の星・福士マリ子を迎え「ファゴット協奏曲」、後期交響曲の名作「ブラハ」、そして、シンプルで楽しい曲想の2本のホルンと弦楽合奏による「第1ロンドン・ナハトムジーク」の3曲です。



第109回定期演奏会

2017年 11月24日[金]19時開演 | 25日[土]14時開演

指揮 **サッシャ・ゲッツェル** / チェロ **アントニオ・メネセス**

メンデルスゾーン 序曲「フィンガルの洞窟(ヘブリディーズ諸島)」Op. 26
 シューマン チェロ協奏曲イ短調 Op. 129
 シューマン 交響曲第2番八長調 Op. 61

■聴きどころ

躍進目覚ましいサッシャ・ゲッツェルが再登場。プログラムは、名曲・メンデルスゾーン「フィンガルの洞窟」で幕を開け、シューマンのチェロ協奏曲では、温かい叙情を湛えた響きが美しいチェロの名手アントニオ・メネセスと共演します。メンデルスゾーンによって初演されたシューマンの「交響曲第2番八長調」は、壮麗さと繊細さ、喜びと哀愁、歌謡性とリズムといった、様々な二面性を持つシューマンの音楽の特徴が聴き取れる作品です。



©Satoshi Aoyagi



©Clive Barba

第110回定期演奏会

ミュツスとロゴスI「四つの気質」

2018年 2月9日[金]19時開演 | 10日[土]14時開演

指揮・ヴァイオリン **ライナー・ホーネック** / ピアノ **小川典子**

シューベルト ヴァイオリンと管弦楽のための小協奏曲二長調 D345
 (指揮&独奏:ライナー・ホーネック)
 J.シュトラウス父 ワルツ「四つの気質」
 ヒンデミット 独奏ピアノと弦楽のための主題と変奏「四つの気質」
 シューベルト 交響曲第5番変ロ長調 D485

■聴きどころ

今回新しく始まるもう一つのシリーズが「ミュツスとロゴス」。寓話や神話の領域である「ミュツス」と、これに對置されるものとしての論理や聖書の領域である「ロゴス」。このシリーズでは、神話や聖書、観念に着想された古今の名曲の数々を取り上げていきます。年度を締めくくるこの演奏会では、古代ギリシャからヨーロッパへと受け継がれた「四つの気質」という概念を、ヨハン・シュトラウス父のワルツとヒンデミットの変奏曲で聴き比べていただきます。軽妙なシューベルトの佳品・小協奏曲と、初期交響曲の傑作第5番とともに楽しみください。

「四つの気質」…ヒポクラテスら古代ギリシャの医師たちが、人間の性質や病気を4種類の体液との関係でとらえたことに由来する考え方。4種類の体液は、四大元素(火・水・土・風)と結びつけて考えられている。[血液(空・春・東)、黄胆汁(火・夏・南)、黒胆汁(土・秋・西)、粘液(水・冬・北)]



©S.Mitsuta